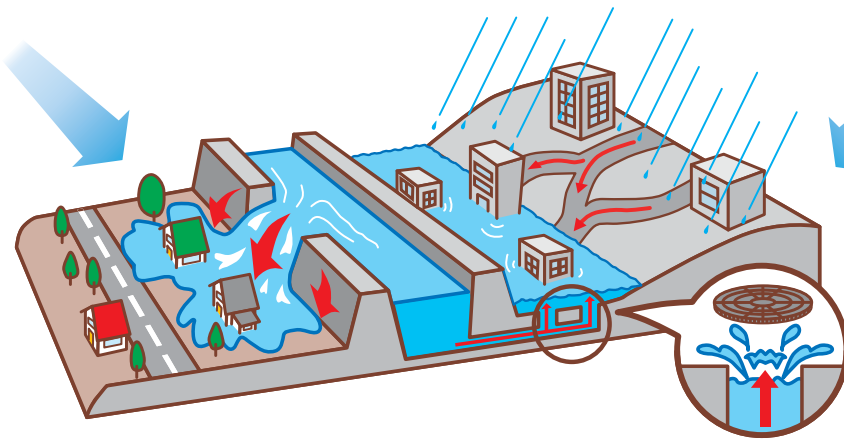


氾濫の種類

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

外水氾濫
大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を超える、あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増すため、最大の注意が必要。



内水氾濫
その場所に降った雨水や、周りから流れ込んだ水がはききれず溜まって起きる洪水。的確なタイミングで警報や避難指示を出すのが難しいため、注意が必要。

河川の危険水位について

鹿児島県では、県内に設置してある雨量計、水位計の観測データをリアルタイムでご覧いただくことができるWEBサイトを公開しています。

鹿児島県河川砂防情報システム | <http://www3.doboku-bousai.pref.kagoshima.jp/bousai/jsp/index.jsp>



◆大崎町付近 河川の危険水位

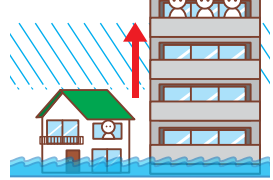
河川名(観測地点)	持留川(崎園橋)	菱田川(田尾橋)
水防団待機水位	2.3m	4.9m
はん濫注意水位	3.0m	5.6m
はん濫危険水位	4.2m	7.1m

避難行動のポイント、危険な場所

！ 浸水が始まる前に早めの避難を
氾濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となる。浸水してから自宅外への避難は危険。気象予報や河川洪水予報などの情報をもとに、身の危険を感じたら自主的に避難を開始する。



！ 状況に応じた避難を
周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物のできるだけ高い階に避難する。移動途中であっても、危険を感じた場合は、近隣の建物のできるだけ高い階に避難する。



！ やむなく浸水の中を歩く際は
裸足、長靴は厳禁。水中で脱げづらい紐靴などが適している。また、氾濫水は濁っているため、水面下が確認できない。長い棒などを杖替わりとし、側溝やマンホール、障害物に注意する。



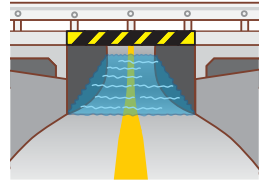
！ 川や用水路に近づかない
降雨が続く不安に思っても、川や用水路、田畑の用水は見に行かない。やむを得ない場合は複数人で行動する。河川の様子を確認は、自治体などのライブカメラ情報を活用する。また、避難の途中も増水した川の近くを通るのは避ける。



！ 地下室、地下街は危険
地下にいる場合、地上の様子が把握しづらく、避難経路が限定される。また、地上が冠水すると、一気に水が流れ込んでくる場合もある。停電の可能性も高く、脱出が困難となる。



！ アンダーパスは危険
道路や線路の下をくぐるアンダーパスや地下道は、洪水の際、真っ先に浸水する。場所を把握し、迂回路を想定しておく。



(ページ内の図表は気象庁ホームページより抜粋、編集)

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

- ！ とにかく自分の身を守ろう！**
地震だ！ まず身の安全
大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、姿勢を低くし、頭を守り、揺れがおさまるまで待ちましょう。
- ！ しっかり火の始末で、火災防止！**
大揺れがおさまった
台所やストーブなど火の始末をしましょう。避難の時は、電気のブレーカーを下ろし、ガスの元栓を閉めましょう。
- ！ わが家の安全確認、確保！**
火の始末のあと
家族の身の安全を確認、確保し、災害情報、避難情報を入手しましょう。また、避難可能な出口も確保しましょう。
- ！ 隣近所の安否確認、助け合い！**
外に出たあと
家の家具の下敷きになった人の救出や、消火活動を隣近所で協力して行いましょう。
- ！ 2,3日は自分でしのご！**
避難後、数日間
地震発生後の数日間は、水、食料に加え、電気などの供給が途絶えます。この間、日頃から、生活必需品(非常用品)を準備し、自分でしのげるようにしておきましょう。



屋内にいた場合

- 家の中**
 - 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
 - 揺れがおさまったら火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
 - 乳幼児や病人、高齢者など要支援者の安全を確保する。
 - 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。
- デパート・スーパー**
 - カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。
- 劇場・ホール**
 - カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。あわてずに冷静な行動をとる。
- 集合住宅**
 - ドアや窓を開けて避難口を確保する。
 - 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。



屋外にいた場合

- 路上**
 - その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などの安全な場所に避難する。
 - 近くに空き地などがいないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
 - ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
 - 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。
- 車を運転中**
 - ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
 - 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
 - 避難が必要な時は、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。
- 海岸付近**
 - 高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。
- 電車などの車内**
 - つり革や手すりに両手でしっかりとつかまる。
 - 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外に出たり、窓から飛び降りたりしない。
 - 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。

